◇　貳　又　聖　規　君

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員、登壇願います。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　４番、会派みらい、貳又聖規でございます。まず初めに、町理事者初め職員の皆様におかれましては、このたびの新型コロナ感染症の対応で各種手続やアルコール消毒液の配布など、休日返上など、大変なご苦労の中行政サービスの維持に務められたことに心より感謝いたします。

それでは、通告に従いまして順次質問させていただきます。大項目の１点目は、足腰の強い漁業の確立と水産振興についてであります。

１点目、水産業の現状と課題について、就業者数・漁船数・平均年齢・魚家所得・産業別割合の統計データから見る昭和60年からの変化についてお伺いいたします。

２点目、漁業者の産業への貢献による経済波及効果をどのように捉えているかお伺いいたします。

３点目、新型コロナウイルス感染症の影響による漁業者の収入の現状についてお伺いいたします。

４点目、７月からホッキ漁や毛ガニ漁が解禁されると買い控え等による価格低下の影響が懸念されます。本町の漁業を町民が一丸となって支える「バイローカル」運動の展開が重要と考えますが、町の見解を伺います。

５点目、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金において、漁業者と水産加工業者に対する施策を講じる必要があると考えますが、町の見解をお伺いいたします。

６点目、白老港では船の係留場所が狭く、早急な岸壁の整備が求められますが、その進捗状況と今後の整備方針について伺います。

７点目、青森県では漁業を守り、さらに発展させるために行政は保健担当者のみならず、漁業担当者も漁業者の生活習慣病の予防に取り組んでおります。こうした取組は、本町にとっても必要と考えますが、町の見解について伺います。

８点目、地域再生を目指す本町にとって長期的視点に立った漁業・水産振興策が重要であるが、それについての見解と第２期白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生推進交付金事業の活用について町の見解をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　戸田町長。

〔町長　戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君）　足腰の強い漁業・水産振興についてのご質問であります。

１項目めの水産業の現状と課題についてであります。昭和60年の水産統計と比較しますと、平成27年度の産業別割合は0.8ポイントの減、就業者数は209名の減、漁船数は30年度で232隻の減となっています。一方、平均年齢は31年度53.5歳で、特に60歳以上の方の割合が増加しているとともに、魚家平均収入は705万円増の1,243万円となっております。これらの

ことから、漁業者や漁船等の減少の一方で、魚家平均収入は比較的安定しているものと推察いたしますが、近年の主要魚種の漁獲量の減少や高齢化の進行による後継者不足や物価上昇による経費の増大等が現下の課題であると認識しています。

２項目めの漁業者の産業への貢献による経済波及効果についてであります。漁船の重油、漁具の購入等、漁業活動において直接消費される経済活動とともに産業としての漁業の存在や漁業者の日常生活における経済活動等を総合的に勘案しますと、経済波及効果は非常に大きいものと捉えております。

３項目めの新型コロナウイルス感染症の影響による漁業者の収入の現状についてであります。水揚げされる全魚種の平均単価を昨年同月と比較しますと３月が12円安の228円、４月が５円安の267円、５月が68円安の207円となっております。特に外食自粛等により、飲食店で消費されることの多いマツカワやタコなどは大きな影響を受けており、魚家収入にも影響を及ぼしているものと捉えております。

４項目めのバイローカル運動の展開についてであります。新型コロナウイルス感染症は、地域経済にも大きな被害や影響を及ぼしております。特に外出自粛等による飲食、宿泊施設等の打撃は大きく、既に町としても独自の支援策を講じてきたところであります。今後においても地域経済の早期回復を目指し、地域で地域経済を支える視点を大切に効果的な施策の展開を図ってまいりたいと考えております。

５項目めの新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した漁業者と水産加工業者に対する施策についてであります。飲食店等における営業自粛の影響を受け、全国的に農水産品の単価下落が続いており、これを回復するためには消費の回復・拡大が一番の生産者支援であると捉えておりますので、今後予定されている国の２次補正を活用し、農畜産物も含めた形で事業を展開したいと考えております。

６項目めの白老港の狭隘化解消に向けた進捗状況と今後の整備方針についてであります。地方港湾白老港においては、かねてより漁港区の狭隘化が課題と認識しておりますが、近年では岸壁の老朽化等の課題も顕在化している状況にあります。このことから、今後関係機関等と協議の上、優先順位を定めて整備できるよう検討を進めてまいります。

７項目めの漁業者の生活習慣病の予防についてであります。白老町では、白老町商工会、とまこまい広域農業協同組合やいぶり中央漁業協同組合と健診業務での連携を取りながら生活習慣病の予防に努めております。しかしながら、特定健診受診率は全道でも中位程度にあることから、健康カレンダーの冊子化や40歳未満の方に受診券送付を進めることなどで受診率向上を図り、生活習慣病の予防強化を進めていく考えであります。

８項目めの長期的視点に立った漁業・水産振興策についての見解と地方創生推進交付金事業の活用についてであります。漁業・水産振興については、事業効果が見えるまで長い期間を要することから、現在進めている資源放流を中心とした育てる漁業への注力を継続するとともに、今後も見据えた担い手対策等の振興策について関係機関と協議を進めていく

考えであります。また、関係機関と協議する中で必要と判断する事業に関しては、推進交付金の活用の有無を問わず検討してまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　４番、貳又でございます。再質問させていただきます。

まず、１項目めについてでございます。高齢化の進展による後継者不足など課題であると答弁いただきましたが、もう少し詳細に具体的に漁業者の皆さんの困り事、課題をどのように捉えておりますでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　三上農林水産課長。

○農林水産課長（三上裕志君）　漁業者の困り事、課題についてのご質問であります。

漁業者それぞれ個人ごとに悩み事は異なるとは思いますけれども、漁業者全般に共通する困り事としては、やはり魚が捕れないこと。特に白老町の主要魚種でありますサケ、スケソウダラ、そういったものが捕れないということが一番かなと思っております。特にそれに合わせて魚価が現在低迷していること、併せて餌などのそういった漁に係る経費です。そういったものの値上がり等が課題だと捉えております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　足腰の強い農業の確立には、漁業者の困り事を一つ一つ着実に解決し、今ある基盤を強化するとともに、将来を見据えた水産振興が重要であります。

２項目めと３項目めに関連して質問いたしますが、漁業者の経済波及効果は大きいという捉えがある一方で、コロナウイルス感染症の影響を受けて魚家収入は厳しい状況であると答弁ありました。本当に今漁業者の皆さんは大変厳しい状況下にありますので、早急なる対策を求めるものであります。

そこで、将来を見据えたという観点で質問をいたしますが、近年の地球温暖化に伴う海洋資源の変化も深刻な問題であります。町としてどのように捉えているか伺います。併せて魚家収入を向上させる取組として具体的な施策を講じる考えがあるか伺います。

私は、カレイ、ソウハチ、アカガレイは離乳食によいというような、活用次第では市場価値を高められると考えております。白老町では多く捕れるが、なかなか値段がつかない魚種の活用策が必要と考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　三上農林水産課長。

○農林水産課長（三上裕志君）　３項目あったかと思います。まず、地球温暖化の影響についてであります。地球温暖化、特に海なので、海水温の上昇ということが漁には大きな影響を与えているといったところで、白老町の浜でいきますと特に今まで捕れなかったブリ類が定置網に多く入ったり、あるいはサメによる漁具被害、こういったものが最近増えておりますので、白老町地域だけではなくて室蘭市、苫小牧市、大きな範囲で広がっていると。そ

ういったところで地球温暖化の影響を受けていると感じているところであります。

それと、魚家所得を上げる具体的な施策といったところであります。こちらにつきましては、従来は白老町地域はサケ、スケソウといったところのものが捕れれば一番いいのですが、回遊性の魚種でありますので、なかなか思ったような漁獲量は得られないといったところで、現在町のほうで進めております育てる漁業、マツカワ、ウニ、ナマコです。こちらのほうが徐々に効果が出てきておりますので、そういったものを中心に継続して進めていきたいと考えております。

それから、カレイ類というような具体例を出していただきましたが、現在日の当たっていない魚種というところで何か考えていないかということでしたけれども、過去にはホッキガイと一緒に捕れるサラガイの事業を実はしたことがありまして、急激に単価が上がったといったところがあります。今ちょっとまた安くなってしまっているのですけれども、現在はこの地域では胆振太平洋地域の取組、全体の取組としてマツカワを取組を進めているところなのですが、カレイ類以外でも実は白老町で漁獲量の多い業種としましてはタコですとかケツグです。こういったものが漁獲量の上位にきているものですから、こういったものの価値を高めていけるような施策といったところができないかというところは、漁業協同組合とも今後検討してまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　まず、日の当たらない業種ということでタコ、ケツグですとかありました。私ゲンゲという魚、古俣副町長が今うんとおっしゃったので、御存じかと思うのですが、これ昔からよく捕れているお魚でして、昔はなかなかそれ量を捕れたら捨てるお魚です。ただ、今私漁師の方とお話ししましたら、このゲンゲというのがとてもおいしいと。皆さんきっとこのゲンゲという魚を見ると見たことあるというものだと思うのですけれども、これはやはり北海道ではなかなか貴重なものではないですが、富山ですとか、そちらのほうに行くと幻の魚など言われて、地域が変わればその価値が上がるというところもあるものですから、やはりそういったことも視野に入れながら展開いただきたいと考えます。

続きまして、４項目めについてでございます。バイローカル運動について。この運動は地域住民が地元の飲食店を積極的に活用することで経済波及効果と生活の質を高めるという地域で支え合う概念を持つものであります。私はこれに加えて本町の農林水産業を地域が支え、次世代に食文化を継承することを目的として地域の食材を町民の皆さんが積極的に購入する展開が必要と考えております。７月にはホッキガイや毛ガニが解禁されます。ホッキガイについては、昨年は約160トンの水揚げがあり、取引されております。しかし、このたびのコロナ感染による飲食業の低迷によりこの状態が長引くと、この取引も厳しいものとなります。毛ガニについても価格が低いものになることが予想されます。このようなときだからこそ、町民の皆さんのお力をいただき、この苦境を打破すべく町全体で消費する取組

を推進すべきと考えます。私は例えば町がホッキガイの数トン分を確保、金額の補償をする、町民に還元する取組を展開すべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　三上農林水産課長。

○農林水産課長（三上裕志君）　ホッキの価格下落、それと町内流通に関する質問でございます。ホッキに限らず水産物に関しましては、基本的には水揚げされて、市場を通してから各スーパーですとか小売店に飲食店に流れて消費されているといった流れになっております。ホッキの現在の価格については白老町地域は取っていないのですけれども、ほかの地域ではやはりコロナの影響を受けて安くなっている現状があるというところは認識をしております。町内でも各スーパー、朝市、夕市、そういった機会を持って販売をするなどやっておりますが、今後時期が合えばなのですが、駅北のインフォメーションセンターで行いますロングランイベント、そういったところでの町民向けの販売ですとか、あるいは学校給食への食材の提供といったところも現在検討しているところであります。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　漁師の皆さんの収入が４月、５月とやはり今までの本当に半分以下になっているという状況をお聞きしております。その中でこれから迎えるやはりホッキ漁、毛ガニ漁、これは何とか町も協力しながら漁業者の方の収入の安定につなげていただきたいと思います。ですので、この部分につきましてはぜひ農林水産物との広いその定義の中で国の２次補正を活用いただきたいということを期待するものであります。

６項目めについてであります。白老港の狭隘化解消についてであります。2017年６月にも松田議長が同様の質問をされておられます。そこで質問をいたしますが、それから現在に至るまで整備の進捗状況をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　冨川経済振興課長。

○経済振興課長（冨川英孝君）　整備の進捗状況としましては、特段の進展はないということになろうかと思います。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　今答弁いただきました。今私が感じるには漁業者の皆さんのやはり期待に応える環境整備がされていないという現状であります。ただ、実現するにはやはり様々な高いハードルがあるということを認識している中で質問させていただきますが、町としてはいつ、何を、何年度まで、これは狭隘化に関わる問題ですが、それをめどに整備するお考えがあるかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君）　漁港区の狭隘化の関係について、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

議員言われましたその整備に関して、いつ、どのような形でという部分については、正確にはお答えできない部分はありますけれども、今後もたしか前回議会の中で答弁をさせていただいたことに基づいて、引き続き関係機関だとか国に要望をしていく、町単独でできない規模なものですから、そういったものは続けていきたいと思っていますので、ご理解をお願いします。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　先般白老町強靱化計画、町のほうで説明ありました地域計画策定に向けた説明をいただきました。対象となるその交付金、補助金には水産基盤整備事業や海岸事業、漁港海岸があります。この強靱化の地域計画の中にはです。情報収集として、私は内閣官房に問合わせさせていただきました。この計画事業への盛り込みについては、既存事業にこだわらず現時点及び今後想定される課題も踏まえて新たな事業を盛り込むことが可能ということで回答をいただいたところであります。その中で既に北海道内で導入している釧路市では、人命の保護を目的として海岸保全施設等の整備、ライフラインの確保では食料の安定供給を目的として水産物供給基盤機能保全事業、水産基盤整備事業が盛り込まれております。本町においては、今後より水産基盤整備事業や海岸、漁港海岸の整備を強化すべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　冨川経済振興課長。

○経済振興課長（冨川英孝君）　１答目の答弁でもありましたとおり、岸壁の老朽化、そういった部分については課題と認識しておりますので、国土強靱化計画の中に盛り込む、盛り込まないという議論は今後の検討になろうかと思いますけれども、多様な方策を取れるような検討は進めてまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　藤澤危機管理室長。

○危機管理室長（藤澤文一君）　国土強靱化地域計画に関わってのご質問ですので、私のほうからも答弁させていただきます。

先日全員協議会のほうで策定の概要について説明させていただきましたけれども、港湾というものはやはり漁港区のみならず道路網が寸断された場合に重要な、かつ有効な物流拠点となるというところを踏まえまして、さらに水産物を水揚げするといった食料調達基地としての重要な役割を担っているということを踏まえますと、今議員がおっしゃいましたとおり、港湾機能強化について計画に位置づけることについては十分検討に値するかなとも捉えております。ただし、令和３年度以降、この計画に盛り込んだものが、国の支援メニューに合致するかどうかということはまた別問題として捉えていただければなと思います。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　狭隘化を含めてこの環境整備につきましては、その漁業者の皆さんのお話だと、やはり船着き場が狭いことで作業効率がとても落ちてしまうと。これはもう少し環境整備をされることでやはり働きやすい環境になり、また魚も捕れるでしょうし、これはもう本当に地域に循環する取組であります。その中でもう長年やっぱり狭隘化、これを改善というところはなかなか実現はできていないですが、今強靱化のこの地域計画の中に盛り込んでいただいて、それは漁業者の皆さんにもその町はこの長期展望の中で整備するというところをやはり着実に見せる必要があるなと私は考えておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

続いて、７項目めについてでございます。特定健診における昨年度の受診率に対して、漁業者はどの程度受診されておりますでしょうか。平均よりも多いか少ないかでよろしいので、お伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　久保健康福祉課長。

○健康福祉課長（久保雅計君）　ただいまのご質問でございます。特定健診の受診率、最新の情報が平成30年度、昨年度につきましては秋頃に確定するものですから、最新が30年度ということでご了承ください。受診率につきましては、先ほど長谷川議員のところでもお答えしたとおり34.4％という率でございます。ちなみに、平成29年度と横ばいということでございます。そのうち漁業者の割合ということですが、はっきりとは分からない部分はありますけれども、恐らく全体のうち占める割合は低いのではないかと推測されるところでございます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　私も町の元職員ですから、もともとこの特定健診の担当もしたことがございます。私が当時担当した頃は、白老漁港のすぐあるコンビニ、こちらではやはり漁業者の皆さんが甘い缶コーヒーです。これが山積みになっているという状況でありましたが、その甘いものを摂取するだけにやはり健康問題も悪くなったりという実態がありました。今そこは大分改善されているのかなと見ておりますが、この１項目めの答弁で高齢化の進展に対する後継者不足が課題であるということを示されております。30年間で漁業者数が209人も減少しております。この事実は、町にとって大変深刻な問題であると私は捉えております。この現状下、町は総合計画並びに総合戦略において人口減少の抑制に向けた取組を強化しているとするわけであります。漁業者の数が減れば、おのずと我が町の漁業振興は縮小し、受け継がれてきた食文化も失いかねません。私は、漁業者の皆さんの健康問題は個人の問題に委ねるのではなくて、漁業者の方が忙しいから健診を受けられないということではなくて、漁業協同組合のほうから要望がないからやりませんではなくて、町として漁業を守る責務があると考えるものであります。漁業者の方は忙しいから健診は受けられないという理由ではなく、漁師の皆さん、それを支えるご家族が健康で働ける環境をつくる義務

が町にはあると考えます。私は、具体的な提案として漁業者の皆さんを対象とした人間ドックを事業化すべきと考えますが、理事者のお考えはいかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　古俣副町長。

○副町長（古俣博之君）　先ほども長谷川議員のときにもお話もさせていただきましたけれども、本町における高齢化の中でどのようにして元気に健康で本当に長く仕事に関わっていくかというのは、今後の町の大きな大きな課題だと思っております。ましてや今回の総合計画においては人口減対策の中でそういう健康づくりも含めて進めていかなければならないと考えております。ましてやこの漁業の問題、漁業者の問題ということにつきましては、議員がご指摘されましたけれども、やはり本町の第１次産業といいますか、主要産業を支える非常に大きな役割を持っております。そういうことからいってもこの漁業者の健診につきましてはしっかりとした対応は取っていかなければならないと認識はしております。これまでも１答目で町長からも答弁がありましたけれども、これまでも漁業協同組合等も含めて漁業者の健診につきましてはいろいろな形で機会をつくり、時間帯を変えたりもしながらやってきた経緯もあります。それは、漁業者の仕事的な時間の確保という個人的な部分もあろうかと思いますけれども、やはり町としてもしっかりと漁業者の皆さんのニーズに合わせた、そして今後の主要産業である漁業を守るという意味合いからもこの健診の在り方については考えていきたいと思っています。ですから、ご本人だけではなくて本当におやじから息子が健診に向かうように、また奥さんからご主人が健診に向かうような、そういう取組も含めて総体的に人間ドックをどう仕組むかということについては、もう少し議論しなくてはならないし、考えなければ、検討しなければならないと思いますけれども、しっかりとした健診体制を整えるような仕組みづくりは検討を図ってまいりたいと思います。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　ぜひよろしくお願いいたします。

８項目めについてであります。地方創生推進交付金の有無を問わず検討したいとの答弁をいただきました。こちらについては、理解するものであります。何とか形にしていただきたいと強く望むものであります。しかしながら、財政状況が厳しい本町のこの状況、一般財源の活用には限界がありますので、私は３年から４年と長期的な組み立てが可能となる地方創生推進交付金の活用は本町の漁業振興において大変重要になります。そこで、地方創生推進交付金においての重要な視点である３点について確認いたします。

１点目は、ＳＤＧｓについての認識であります。

２点目は、若者担い手育成についてであります。

３点目は、女性の活躍、漁業女性部の活躍についてであります。

町の過去から現在においての捉え方と今後の展望についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　三上農林水産課長。

○農林水産課長（三上裕志君）　まず、ＳＤＧｓの取組についてであります。現在町で行っておりますその漁場整備の取組、ヒトデの除去ですとか、空貝の除去という有害生物駆除活動というもの、こういったものや漁業協同組合のほうで行ってもらっています小学生を対象にした捕獲、サケの採卵体験ですとか放流体験あるいは漁業協同組合の女性部がやっていらっしゃいます。長く以前からやっていらっしゃるのですけれども、植樹の活動、そういったものがこのＳＤＧｓの理念にあったというか、取組だと考えております。こういった活動を今後も継続してできるような体制づくりとか、支援を行政としては行ってまいりたいと考えております。

担い手確保に関する部分でございます。担い手の確保につきましては当然白老町だけではなくて、北海道、日本全国の統一した問題だと認識しております。その中でどうやったら若い方に白老町の漁業に興味を持っていただくかといったところでいろいろくくりをしているところでございますが、現在年に２回北海道札幌市のほうでやっております就業フェアというのがございまして、そちらにもいぶり中央漁業協同組合として29年以降参加はさせていただいているのですが、なかなか研修というところまではいくのですが、やっぱり辞めていかれてしまうというような状況があってうまくいっていないところであります。そういったことでどうしたらいいのかと考えますと、やっぱり人気のあるところは安定した漁業活動、漁業収入があるところ、そういったところに人気が集中していると。

それと、あとは町としての若者の受入れ態勢、そういったものも重要だと認識しておりますので、ほかの先進事例がありますので、そういったところを参考にしながら漁業協同組合とともに検討してまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　地方創生推進交付金事業では、現状で観光消費動向調査が実施されております。観光消費額を今調査されている。私は前回も発言いたしましたが、ウポポイ100万人のお客様が仮に６割食事を取ったとなれば、60万食の消費がされるわけです。そこにそのお食事の中にいかに地域の農林水産物が扱われるかが重要な視点だと考えております。統計データに基づく政策立案が重要であります。私は観光消費額動向調査に加えて今後地域での食材調達率や域内消費額をも含んだ経済消費額の調査研究が必要と考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　冨川経済振興課長。

○経済振興課長（冨川英孝君）　域内経済波及効果といいますか、そういった部分につきましては我々とＤＭＯの関係も含めまして、観光協会でもそういった地域のマーケティング、そういった部分も重要な案件かなと思っておりますので、ここは町あるいは観光協会だとか、そういった部分と連携しながら、そういった調査を行えるようには検討してまいりたいなと思っております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　分かりました。ＳＤＧｓについて、ちょっともう少し。本町は環境の町、平和の町宣言を行っております。そして、ウポポイにより海外との文化、交流拠点を備えた町となります。私は本町の使命として、常に世界を意識した世界基準のまちづくりが求められると考えます。全国には約1,700の自治体がありますが、やはりこのような優位な位置にある自治体はございません。世界の観光地で名高いスイスのツェルマットという地域なのですが、ここの地域は町の中に走るのは馬車と電気自動車、自転車のみであって自動車は通ることができません。環境保全が徹底されております。世界中から訪れる来訪者は地域全体で観光自然資源を保全、継承する地域の皆さんその気持ちに感動いたします。施設が、建物が立派なだけでは文化力が高い観光は実現しません。

先ほど三上課長の答弁にあった過去の虎杖浜女性部の豊かな海を守り育てる森づくりは、世界の人々の胸を打つ実践であります。そして、我が町には水質日本一、常に国内上位となる水質を誇る清流があります。白老町における環境保全、自然との共生の取組がスイスツェルマットのように世界のお手本になる。それが実現できれば、我が町は世界に名をとどろかせる白老町になると私は考えております。

そこで、理事者にお伺いいたします。町民が一丸となりポロトの森や萩の里も含め森づくりを行うことが世界に開かれた観光地づくりにつながると考えます。その理念を持つＳＤＧｓを推進すべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　古俣副町長。

○副町長（古俣博之君）　議員のほうから2030年までの世界的な目標でありますそのＳＤＧｓについてのことに一つのスイスのツェルマットの例も挙げながらご指摘をいただきました。文化力ということにつきまして、どのように解釈をしていくか。それは、様々な観点から考えていかなければなりませんけれども、本町においてはウポポイという世界の民族共生、アイヌ民族の、先住民の在り方、それを歴史と文化を発信する地域です。そのことの文化性を考えたときにやはりいろんな観点で食も、それから産業も含めてのまちづくり全体が問われることだと私自身は考えておりますし、町も今回の総合計画の中においては、それをしっかりと意識した形でのまちづくりを進めていかなければならないという計画づくりをしております。ですから、今申し上げたようにしっかりとしたこの白老町が持っている文化的要素も含め、文化力として発信をしていく、そのための取組はＳＤＧｓという一つの目標はありますけれども、それらを包括した形で進めていかなければならないと、今後のまちづくりの中で、総合計画の中でしっかりと意識して取り組んでまいりたいと考えます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　地球温暖化や自然災害、そしてコロナウイルスといった新たな脅威

など、私たちのその暮らしには様々な困難が立ちはだかっております。どんな苦境でも漁業を守り、育てることが町の使命であると考えます。

最後になります。足腰の強い漁業の確立と水産振興における理事者の思い、最後にこの考えを伺って１項目めの最後の質問といたします。

○議長（松田謙吾君）　戸田町長。

○町長（戸田安彦君）　漁業者も合わせた水産振興の観点から町の考えをお話ししたいと思います。

先ほど貳又議員もおっしゃったＳＤＧｓの話です。理念は白老町のまちづくり、昔から行ってきたまちづくりと相通ずるところが私はあると思っております。それをどう形にして世界に発信していくのかというのがこれからの仕事かなと思っておりますので、今までいろんな質問等々も助言もいただきながらお話を聞いておりましたが、まさしく世界基準になる観光地でありますので、世界基準に合わせるのではなくて、白老町の取組が世界基準になればいいなという思いでやっていきたいなと思います。漁業者、水産振興なのですが、これは自然の恵みなので、今うちの担当課長も話したようにやっぱり魚が捕れないことが、年々捕れなくなっていることが一番の課題だと思っています。ただ、自然の恵なものですから、それをいかに安定的していかなければならないというのは白老町だけでなく、これは国も北海道も併せて漁業関係者のいろんな機関も大きな課題で、育てる漁業であったり、ＧＰＳを使ったものであったり、今いろんな対策を行っている最中でございます。１次産業に携わっている人は、古くはやはり自分の家族がずっと引き継いでいた今までの経緯がありますので、そこをきちんと大切にして３世代も家業が継げるような状態にお手伝いできるのが私たちの仕事かなと思っていますし、捕れた魚をやっぱり付加価値をつけていくということでは、ＳＤＧｓにやっぱりつながっていくと思いますので、その辺は漁業関係者ときちんと付加価値がどうつけていけるかというのは、大きな課題ではあるのですが、一つ一つ課題をクリアして水産業を守っていく取決めをしていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　それでは、暫時休憩をいたします。

休憩　午後　０時０４分

再開　午後　１時００分

○議長（松田謙吾君）　休憩を閉じ質問を続行いたします。

４番、貳又聖規議員、どうぞ。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　４番、貳又です。２項目めの質問をいたします。魅力と活気のあふれる役場づくりについてであります。

１点目、白老町人材育成基本方針について伺います。

①、総合的な人事諸制度の構築と運用における進捗状況並びに実績と成果について。

②、能力開発（職員研修）制度の充実における進捗状況並びに実績と成果について。

③、組織風土・職場環境の変革における進捗状況並びに実績と成果について。

２点目、働き方改革を踏まえた実践について伺います。

①、仕事と育児や介護との両立を図る取組の現状について。

②、国内の先進事例として公共性の高い組織への副業を認める事例がありますが、本町におけるその実現性についての町の見解についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　戸田町長。

〔町長　戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君）　魅力と活力あふれる白老町役場づくりについてのご質問であります。

１項目めの白老町人材育成基本方針についてであります。

１点目の総合的な人事諸制度の構築と運用については、人事異動制度の充実、人事評価制度の確立、職員採用制度の多様化、昇任・昇格制度等の充実の４項目を掲げ取組を進めているところであります。例を挙げますと、人事評価制度の再構築、自己申告制度の改善を進め、その結果等を人事管理の基礎資料として適材適所の人員配置等に活用するとともに、社会人採用の再導入、試験内容の見直しなど、人材確保と制度の充実に努めております。

２点目の能力開発（職員研修）制度の充実については、職場研修の充実、職場外研修の充実、自己啓発の推進・充実の３項目を掲げ取組を進めております。研修を進めるに当たっては、人材育成基本方針に基づき年度ごとに研修計画を作成しております。特に近年では、階層別の集合研修の実施のほか、参加したい研修を自ら希望できる公募型派遣研修の枠を増やし、自主的・自発的な能力開発を促進しているところであります。

３点目の組織風土・職場環境の変革については、管理監督者の意識改革、職場内・職場間の協力体制の構築、職員健康管理とワーク・ライフ・バランスの改善の３項目を掲げ取組を進めております。組織力向上のためには、職員が働きやすい能力を発揮しやすい組織風土・職場環境の整備が不可欠であることから、人事評価の重要項目としてマネジメント人材育成、組織力向上などの評価項目を設定するほか、知識・経験・情報の共有の徹底、長時間労働の削減等に取り組んでおります。

２項目めの働き方改革を踏まえた実践についてであります。

１点目の育児や介護との両立を図る取組についてでありますが、育児については子供が３歳に達する日まで取得が可能な育児休業のほか、育児短時間勤務や部分休業が認められております。現在女性職員２名が育児休業を取得しておりますが、男性職員の育児休業取得実績はありません。介護については、同居する配偶者や父母等が介護を要する場合の介護休暇や介護時間、短期介護休暇の制度があります。現在介護休暇を取得している職員はいませんが、昨年度は１名が制度を利用しております。

２点目の公共性の高い組織への副業の実現性についてでありますが、地域活動の担い手

が不足する中、職員が地域貢献活動を副業として行うということは、今後求められる視点であると考えております。現在も勤務に支障のない副業は可能でありますが、特に現在ボランティアで行っているスポーツ少年団等の指導に係る報酬などを含め、課題を整理し、副業を認める際の具体的な基準の作成を進めていく必要があるものと考えております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　４番、貳又です。再質問であります。１点目の総合的な人事諸制度の構築と運用についてでありますが、まず自己申告制度に関して毎年どの程度の申告が出されておりますか。また、人事担当としてその希望はどの程度かなえられていると評価されており、またその成果についてどのように評価されておりますでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　自己申告書制度の関係でございますけれども、例年100名前後の申告がありますけれども、昨年、令和元年度につきましては対象がこれ消防と病院の医療職については除いているのですが、対象が188名のうち105名から申告書の提出を受けているというところでございます。自己申告書の内容につきましては、今おっしゃった異動の希望先のほかに現在の業務の満足度や、業務への適正業務量、働き方、働きがいとか、そういうものについての記入のほか、キャリア設計的なものの記入をするという内容がございます。異動希望については、異動希望対象となると、異動希望がある者については異動希望の対象ということにはするものですけれども、最終的にはその方がどのような適性があるのかですとか、今後どのような将来的に進めていくかとかは人事評価だとか、人事ヒアリングの結果等も踏まえて適材適所の人事配置をしておりますので、必ずしも異動希望先どおりにということはなかなか全てがということにはいきにくいというような状況にはなっています。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　職員の皆様それぞれ得意分野、専門的なスキル等お持ちの職員も多いと思います。その中で適材適所の人事配置制度の充実ということも、こちらは掲げられておりますが、専門職、特に医療福祉の専門職、その専門職に必要な国家資格所有者につきましては、やはりその持ち場で力を発揮すべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　今おっしゃいましたように、その国家資格等をお持ちの専門職につきましては、基本的にはやはり専門部署での能力を発揮していただくというのがやっぱり原則的な考え方だと思います。ただ、一方でもう一つの視点というか、視点を変えるとやっぱり専門職と別に異なる分野の業務に関わる中で業務の幅を広げるだとか、そのことによって自治体職員としてのスキルというものは上げていくというような考え方、あとそ

の後にまた再度専門分野に戻ると。あるいはその専門分野を生かせる部署に戻るというようなことで活躍するということも組織にとっては非常に有益なこととも考えてございますので、そちらについてはそういうような考え方もあるということでございます。

このように本来専門部署と違うところに行くということがございましたら、まずは本人の意思の確認も当然事前にヒアリング等の中でさせていただくですとか、あとはその組織として必要な部署、その人が行かなければならないという部署と、要するに本人と組織上の需要というのですか、そういうものが合致した中でそういった異動という考えでは進めていきたいと思っています。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　町長の公約にある５つの「わ」でいきますと住民との対話というのはこれ重要でありますけれども、職員の皆さんのやはり専門的なスキルとして今その傾聴をする、対話スキルを高めるような研修でしたり、あと何人かグループの中でその皆さんの住民のお話をまとめるような、そういうスキルアップの研修等、そういったスキルも必要だと思いますので、そういったことも視野に入れられた取組の広げ方をしていただきたいと思います。

その中で、若手職員についてです。若手職員を中心とした異動を行うジョブローテーション制度についてお伺いいたしますが、まずこの考え方、どのような部署で、何年スパンで異動するですとか、その具体イメージをお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　ジョブローテーションの考え方です。基本的な考え方としましては、特に一般事務職の新規採用職員につきましては、町民と直接接する機会の多い部署ですとか、あるいは行政としては基本的なルールを学ぶという機会が多い部署というところを中心に配属しているというような考え方で進めております。また、異動時につきましては、これまでの部署と異なる部署ということの業務も経験できるということも加味しまして、大体10年間で３部署から４部署が実態でございまして、大体その辺のローテーションで人事配置を行っているというような状況でございます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　今10年間で３部署から４部署というお話ありました。適材適所の人事配置制度では、やはり職員の長所が発揮できることが肝心であると考えます。私は特に中長期的視点に立った若手職員の育成に係るジョブローテーションについては、現在は人材育成基本方針の中で定められておりますが、ぜひ実行計画レベルに制度化することが重要と思います。なぜならば、新規に採用された職員がその課に配属されて２年、３年たったときにやはり本来であれば異動していただいて、ほかの経験値を踏んでいただくことが重要

だと思うのですが、いざ管理職の立場になると、この人材はやっぱり貴重な戦力であるので、ちょっと異動させられないよですとか、そういう事情によってこのジョブローテーションが回らない可能性もあると思うのです。ただ、それは職場の都合であって、長期的に見た人材育成の中でいくと、職員は今やはり10年間に三、四部署というのはきちんと制度化する必要があると思うのですが、その辺のお考えをお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　今議員がおっしゃったように、ご指摘のとおりなかなか当然人事ヒアリングという中では課長職ですとか、そちらの意見もお伺いした中でその人が、以降職員が異動できるかどうかということもヒアリングします。その中でどうしてもその次の年にこういう計画を策定しなければならないとかということで、もう少しいてほしいだとか、それなりの理由がある場合は別としても、やっぱり今おっしゃったようにある程度その経験値を積み重ねてだんだん管理職になっていくと、いろんな部署に行けるということが人材育成の上では大事だという考え方を持っておりますので、計画というところのはっきりしたものは、なかなか人が辞めるだとか、そういうこともあるので、そこまで実際実態と合わない部分もあるかもしれないのですけれども、そういうものができるというような形で取組は進めていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　続いて、希望降任制度の現状についてどのようになっているのか、現状をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　先に希望降任制度の趣旨というものもちょっとお話しさせていただきたいと思うのですけれども、希望降任制度につきましては、職員の降任に関する希望を尊重し、職員の勤務意欲の向上を図ること、それとあと組織の活性化を推進すること、こういうことを目的としているものでございますけれども、降任に当たっては、その希望に当たっては要件がございまして、病気や家族の介護等を理由に職責を果たすことができないという場合に提出するというものになってございます。これは平成18年から制度運用しておりますけれども、これまでに２件の申請がありました。ただ、これにつきましてはともに制度の今言ったその趣旨に合わないというところもありまして、実際には不承認となっているというところでありますが、今後も心身の不調を訴える職員からの相談というのも複数あるということなどもありますので、好ましいことではないのですけれども、今後もそういった降任を希望するケースが増えてくるということも予想されますので、適切に運用していかなければならないと思っています。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　この希望降任制度の現状は分かりました。ただ、こちらについては後ほど質問をする働き方改革のほうにもつながってくるのかなと思いますので、こちらはまずお話は分かりました。

続きまして、２項目めの能力開発制度の充実についてであります。職場研修、ＯＪＴについて特に若い世代の職員にとって重要なことは、白老町職員としてまず地域を知るといった現場を通した実践型の研修が必要であると私は考えております。先ほどの答弁の中でいくと、参加したい研修を自ら希望できる公募型派遣研修の枠を増やすということも、これも重要だとは思いますが、地域を知るその実践型の研修、これについての所見をお伺いしたいと思います。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　ＯＪＴの考え方でございますけれども、今新規の採用職員というのが結構町外からの職員も非常に増えてきているということもございます。その中で今のところコロナの関係とかで実施できていない部分でありますけれども、当初計画の中では地域地場産業の体験ですとか、あと町内会の実践活動への参加ですとか、あと地域おこし活動実践研修会というものを実は企画しておりました。今後、今年度中にもできる限りそういった地域を知るといった意味での研修をまた進めていきたいと考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　分かりました。

続いて、職場内研修のほかに職場外研修というのがあります。こちらにつきまして、他の自治体への研修派遣やその人事交流としては、姉妹都市である仙台市やつがる市との実施を進めるべきと考えますけれども、いかがでしょう。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　姉妹都市今うちのほうで仙台市については昭和56年からの歴史姉妹都市として、あと外国ではカナダのケネル市と国際姉妹都市として、これも同じく昭和56年に締結しているというところです。あともう一つが平成３年には青森県の森田村、現在のつがる市です。こちらと姉妹都市提携を結んでおります。これは御存じかと思いますけれども、その中で過去にケネル市とは人事交流をしたという経緯がございます。また、現在町のほうでいろいろ文化庁ですとか開発局、北海道との人事交流を進めているというところもございまして、派遣対象となる職員というのが大体30代の職員とか、そういう者が多かったりするのですけれども、そういう対象となる職員がなかなかいないということもございまして、あとそのほかに姉妹都市以外にもいろいろ例えばほかの近隣の自治体間同士の交流だとかということも今後いろいろ出てくるのかなということもございます。その中で姉妹都市の交流と、やっぱり深いつながりもございますので、そういった中の、一つの選択肢として考えていかなければならないかなと考えています。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　仙台市に特化してお尋ねいたします。過去に仙台市において観光プロモーション等の実施がありますが、その仙台市民にとって白老町の認知度等、これが分かれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　冨川経済振興課長。

○経済振興課長（冨川英孝君）　仙台市での白老町の認知度ということでございます。30年度に実施しました道外プロモーションの中で仙台市、30年12月１日にプロモーションを行っております。その中で行いましたアンケートの中においては、仙台市民というか、そういった方の認知度といたしましては、白老町に行ったことがあるのが45％、行ったことはないが知っているは34％ということですので、合計79％、高い認知度になっているかと思います。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　今79％というお話がありましたが、私の想定以上に仙台市の方々の認知は高いのかなと思いました。そのような中で、私は各自治体が持つ特性に合わせた人事交流が効果的であると考えております。道や文化庁の派遣等ももちろん大事ですけれども、こちらから行きっ放しではなくて、相手側からも来る、このやっぱり人事交流、これによってその職員不足も解消できるだろうと考えます。その中でつがる市であれば、本町においてつがる市の特産品の即売フェアをスポット的に実施しております。つがる市には亀ヶ岡石器時代の遺跡があります。亀ヶ岡石器時代の遺跡で、北海道北東北の縄文遺跡群を世界遺産にという動きがあります。このつがる市のホームページを見ると、最初にもうトップページに北海道北東北の縄文遺跡を世界遺産にと力が入っております。そのようなことで、つがる市においては文化観光切り口として若い世代の職員研修にはとても合うのかなと考えます。

　また、100万都市仙台市においては、姉妹都市を管轄する交流企画課、こちらに私が問合わせしたところ、もう非常にやはり姉妹都市の担当ということもあって、白老町もウエルカムという感じで、こちらも本当に非常にありがたかったのですが、交流企画課に籍を置かせていただけるのであれば、ウポポイの認知度を効果的に高めることができるはずです。今その認知度の話は79％というお話がありましたが、仙台市役所にお勤めの市の職員がやはり白老町とウポポイ、これをリンクして押さえていただいている職員がどれだけいるのかというのも、これも大変気になるところでありますが、そしてさらには仙台市においては、物産面においては宮城県内、仙台市においても、先ほど私の１項目めの漁業振興ではではありませんが、大みそかやお正月には、ババガレイの煮つけを食べる風習があります。この宮城県内は、国内でもカレイの消費値がすごく高い地域であります。ここ数年、本町の水産加工

業者が扱うマツカワの加工処理がすばらしいということで、仙台市の市場において高値がついている実績もございます。そういう関係性の中で文化、観光、物産の切り口で中堅職以上の職員を白老町の営業マンとして送り込むことで仙台市の市役所の職員にも白老町の認知度を高め、白老町のみならずウポポイもリンクさせ、そして市民にも認知度を高めることで、関係人口の創出が今重要になってきておりますので、さらにこの姉妹都市交流、これをうまく活用することが求められていると私は考えております。

そんな中で、私は仙台市との交流は大きな成果を得ると考えますが、理事者のお考えはいかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　古俣副町長。

○副町長（古俣博之君）　今非常に具体的にご提案というか、教えをいただきまして、一つの大きな今後の職場外研修の在り方の参考にさせていただきたいと思っております。ただ、そういうその研修の在り方を構築していくということに関しては、やはり本町の議員のほうから文化面、それから観光面、それから物産面における本町との関わりの重要性の大きさも含めてお話ありましたけれども、やはり本町の今後のまちづくりとのその関連性だとか、それから今後の在り方、どういう交流を含めての研修を進めていくか、その在り方等についてやはり戦略的に考えて進めていかなければならないのではないかなと思います。

一ついただきました白老町の営業マンとしてのその役割を担いながら、実践的な、そして具体的な研修を進めていくということは、私自身は非常に今後の政策形成に職員が力を発揮していくという、そういう能力を培っていく一つの大きな方法だということは、前段申し上げたように認識をしたいと思います。そういういう意味で今後しっかりとした職場外研修の在り方が今ある議員からご提案いただいた姉妹都市の関係性を含めて、どのようにやっていくことが本町にとっての、それから相手側にとってもプラスアルファとして、つくり出すことができるのか、その辺のところは今後十分視野に置きながら、研修の在り方について検討を図ってまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　つがる市、仙台市との姉妹都市の人事交流につきましてはウポポイが開業される、このやはりタイミング、これは非常に大事だと私は思いますので、ぜひそういったことも視野に入れながら、この構築に向けて構築をしていただきたいと考えます。

次に、この能力開発制度の充実に関連しまして、自己啓発、自主研修の推進、充実についてでありますが、職務の業務と密接に関係する資格と取得に対する支援を検討しますということで書かれております。具体的なイメージは、どのようなものでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　自主研修、自己啓発における資格取得の支援の在り方、イメージだと思うのですけれども、こちらについては業務と密接に関係する資格、そういったもの

を取る場合、そしてその業務については継続的に行うということが必要なそういう場合ですけれども、基本的にはその資格の取得や更新の手続などに要する時間や、日数分の職務専念義務というものを免除するというようなことがまず一つと、そのほか一番これ大事かなと思うのですけれども、試験等の学習時間や日数を確保するためにその職場内等での業務量を調節するということなどの支援、協力、こういった配慮ができるような環境づくりをするというような形になるかと思います。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　本町は文化共生も掲げております。海外との交流もこれから広がると思いますので、英語力、語学力の取得ですとか、手話を身につけるですとか、こういったことはやはり町にとってもこれは必要であるかと考えますので、そういったことも、ぜひぜひご思案に入れていただければと思います。

その中で、町立病院の改築計画が進む中で、医療従事者の確保についても力を注がなければなりません。准看護師が看護師になるための資格取得に対する支援の考えはございますでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　村上病院事務長。

○病院事務長（村上弘光君）　町立病院の准看護師と資格ということで、私のほうからお答えをしたいと思います。まず、町立病院の今の看護師の現状をちょっと説明させていただきますと、現在正規職員で21名正看護師の資格を有する職員がおります。正職員の中には准看護師の資格を持つ職員はおりません。准看護師の資格は会計年度任用職員ということで外来に３名、介護老人保健施設に２名いると、計５名となっております。現状として確かに議員おっしゃるように、医療従事者の不足というのはかなり大きな問題となっていますけれども、かつて准看護師の資格はかなり以前は学校を卒業されてから２年間通って准看護師の資格を取って、また働きながら今度正看護師の資格を取れたとかという方が非常に多かったのですが、最近はもう高校を卒業されてから３年間で正看護師の資格が取れるということもありまして、私ども病院として募集する際は、もう最初から正看護師の資格を持って入ってきていらっしゃる方が多いというような形でございます。逆に准看護師の資格を持っている方については、どちらかというと病院よりは最近多いのは介護老人保健施設や特別養護老人ホームとか施設だとか、あと外来のみのクリニックだとか、そういったところに直接お勤めになる方が多いということでございます。

先ほど申し上げた会計年度任用職員５名、この方々がでは上位の資格、正看護師を取るかというような形の話になってくるのですけれども、当院としては正看護師にする、求める要因としては、やはり診療報酬上入院基本料だとか施設基準の関係で現在は看護師の資格にはっきり明記されているものですから、そういった方々については当然看護師として採用、正職員として採用を望むものなのですが、現状会計年度任用職員の方については、もう年齢

的な部分だとかご家庭の事情でそういった上位の資格を取るという状況にないものですから、なかなか今そういう方にまた資格の助成だとかをするというのは、今のところ予定はないというところでございます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　分かりました。私が懸念するのは、今は町立病院の改築等、今ある程度一定の方向性が見えましたけれども、その職員の皆さんのやっぱりモチベーションを保つために准看護師から正看護師というようなお話をしましたけれども、この町立病院に働いていることで何かいろいろとスキルアップできるですとか、そういったことが職員のモチベーションにつながると思いますので、ぜひそういったことも考えていただければと思います。

続いて、３項目めの組織風土、職場環境の変革についてであります。課を横断する課題について庁内プロジェクトチームの設置を推進するとあります。私は、前回も仙台藩白老元陣屋資料館、2020年、この入館者数を３万人として、今コロナの影響もあるので、これは難しいですが、庁内プロジェクトチームを立ち上げて取り組むべきとの提案をいたしましたが、その後の進捗はどのようになっておりますでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　今プロジェクトチームの立ち上げということで質問の趣旨と取りましたけれども、現在来年度からの新たな行政改革の推進計画ですとか、そのほかにもこの間説明させていただきました国土強靱化計画の関係、こういったもので検討委員会というか、プロジェクトチームというものがつくられてございますが、課をまたぐ、横断する課題に、そういった課題については積極的にプロジェクトチームというものを活用していくということをしていきたいということで考えてございます。

ご質問の仙台藩白老元陣屋資料館の入館数増加の取組についてでございますけれども、こちらについて現在企画課と経済振興課、建設課、危機管理室、これらによる保存活用計画策定委員会を立ち上げ検討を進めているというのと、今後整備基本構想庁内検討委員会というのを立ち上げるという予定でございます。この中でこれらの計画や構想については、当然貳又議員がおっしゃった入館料増といった視点も踏まえながら協議や検討をするというプロジェクトということで、そういったプロジェクトチーム、委員会としての捉えをしているというところでございます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　ぜひ本町にはウポポイがあり、そして白老駅北観光インフォメーションセンターもあるわけですから、研修として来訪者に観光案内を行うですとか、場合によっては庁内プロジェクトチームによる商品開発を進め、地域活性化の実践も可能と考えま

す。白老町の今のその地の利を生かした研修の実践についての可能性はありますでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　先ほどもＯＪＴのところでも若干触れさせていただいたのですけれども、ＯＪＴだとか自主研修のほうにも近いということも出てくるかと思うのですけれども、地域への、先ほど言った地域実践の研修というのは今年度から実施するという予定でおりますけれども、議員のおっしゃっているように観光案内や商品開発といった分野に対してもそういった研修の一環として取り組むということは十分に考えられるのではないかとは考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　ぜひ今本町はかなりいろんな整備がされていて、それはもう職員にとっては本当に間近に実践的にスキルを磨き上げられる、そういった施設もあると思いますので、そういった研修としての有効活用をぜひ実施していただきたいと考えます。

次に、２項目め、働き方改革を踏まえた実践についての１点目の仕事と育児や介護との両立についてであります。活気あふれる職場環境づくりには、意欲、能力を存分に発揮できる環境づくりが望まれます。そのためには職員一人一人の気持ちのゆとりと育児や介護との両立など、職員のニーズの多様化を認め合う職場風土が求められます。その中で私は、育児両立支援では女性を対象とした産前、産後、育児休暇のさらなる推進、１答目の答弁では実績２名ぐらいというお話もありましたが、女性職員の復職時のケアが必要と考えております。そして、併せて男性を対象とした育児休暇取得の推進、また子育て期の部下のマネジメントに関する管理職の教育、イクボス研修が必要と考えます。介護両立支援についても同様であり、介護休暇の推進が重要と考えますが、その所見をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　今少子高齢化が進むという中で、ワーク・ライフ・バランスの推進ですとか、子供を産みやすい、また育てやすい環境づくりということは今後も積極的に進めていかなければならないという課題であると捉えてございます。その中でなかなかその各種制度、これ育児休暇がまだ比較的女性職員については取られている方もいるのですけれども、なかなか男性職員についてはいないということで１答目にもお話しさせていただきましたが、こういった各種制度があるということをしっかりまず周知徹底していくということが大事だと思いますし、先ほどもありましたけれども、そういったをことに対する職場内の理解だとか環境づくりということも非常に一番大事になってくるのかなということで認識しております。

そして、同じく介護についてもこの中で今非常に増えてくる可能性も出てくるというようなこともありますので、こういった部分についても同じように周知していくということ

と、職場の協力がなければなかなか休みやすい環境にはならないと思いますので、できるだけそういった、なかなか人を増やして対応するということも難しい中であるのですけれども、そういった取組は進めていかなければならないと考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　本町の目指す多文化共生、その考え方は海外との交流、民俗文化交流にとどまらず、やはりそれは障がいだったり、福祉だったり、高齢者、子供等優しいそのまちづくりを目指す多文化共生であります。その中において白老町役場、この職場自体も職員の皆さんの多様なニーズがあると思いますので、それを認め合うやっぱり気質というのが、風土というのが私は大事だと考えます。ですから、育児休業、育児休暇であれば、今は女性の実績が２件ですとかありますが、やはり男性も取れるような環境づくりを率先して行うことが大事だと私は考えます。

そこで、理事者の考えをお伺いしたいのですが、育児でありますが、子育て中の職員にとってお子さんを育てる時期というのは人生の限られた貴重な時間であります。子供と親が手をつなぐ時間というのは、人間が形成する上でとても重要であるそうです。親と子供が手をつないで歩くという。そして、夫婦が協力し合い子育てする世の中にもなりました。男性職員で例えると、家事も育児も本当に仕事よりも大変であります。私は、職員が自ら当事者となり経験すること、これが糧となり、自治体職員として血の通った子供に優しいまちづくり、高齢者に優しいまちづくりが真に実現すると考えます。自らが経験することでそれが自治体職員として町民の皆様に与える、やはり豊かな暮らしの提供につながっていくのかなと私は思います。また、当事者のみならず職場の管理職、周りのスタッフの理解も重要であります。私は、子育て真っただ中の職員にはさらなるノー残業デーの推進が必要と考えます。

そこで、古俣副町長のご自身のご経験を重ね合わせて、人生の先輩としても子育てと仕事の両立についてどのようにお考えでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　古俣副町長。

○副町長（古俣博之君）　ご指名をいただきましたので、潜越ながら答弁に立たせていただきます。

本町は自治基本条例の中においても、優しさを感じるまちづくりを目標に上げながらまちづくりを進めておるところでございます。今回の総合計画の中においても、町民の皆さんも含めてやはりこの変化の激しい時代状況の中でどういうふうにして人と人とが心豊かに関わり合いを持って生きていくのか、その辺のところを押さえながらでの総合計画かと認識をしております。

議員のほうからありましたように、私も長らく家内と教員として３人の子育てをした経験を持っております。確かに非常に大変な時代といいますか、部活をしながら子育てをしな

くてはならない、お互いに放課後の会議、行事等ありますから、自分たちではできないところは親に見てもらいながら、それから近所、仲間同士で子育てのこの集団づくりをしながらやってきた経験があります。

そういう中で、本町に取りまして職員自体が本当に優しいまちづくりをしていく、その担い手になる。それから、これからの時代を担う子育てを職員自体がしっかりと認識をして進めていくためにも地方の働き方改革の中でそういう時間的な余裕、それから気持ち的な余裕を取れるような、そういう働き方を模索していくということはしっかりと考えていかなければならないことだし、それからもう一つは気持ちがやっぱりゆとりがなければいい仕事ができない、そういうことですから、そういう人間関係も含め、そしてお互いがお互いの信頼を持ちながら仕事、業務に当たっていく体制づくりを今後もしっかりと目指してつくり出していきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　無理に振ってすみません、ありがとうございました。

２点目の副業の実現についてであります。副業の導入については、国内では神戸市が先駆けであります。最近では栃木県の茂木町において副業を可能にし、町職員有志が農産物などの地域資源をブランド化して町内外に販売し、町の発信力を高める地域商社を設立した事例があります。本年４月１日に一般社団法人Ｓｏｃｉａｌ　Ｕｐ　Ｍｏｔｅｇｉを設立、代表理事を含む４人の理事には中堅若手職員３名、町ＯＢ１名が加わっており、監事には副町長と町外の有識者がついているそうです。茂木町は人口約１万2,000人の町であり、本町においても実現し得るものであります。私は白老町においてもその可能性を研究、検討すべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　副業についてのご質問でございますけれども、現在地方公務員法におきましても任命権者の許可が得られれば営利企業等への従事は可能ということの制度になってございます。議員がおっしゃいました栃木県の茂木町のような副業の形も新たに最近では出てきているというようなことでもお伺いしているところでございます。

ただ、公共性が高いものであっても本来業務と副業の区別がなかなかつきにくいものというのは副業として行うのではなくて、まずは職務の一環としての協力支援を行うですとか、あるいは実践研修の一環として取り組むというようなことも可能なのかなとも考えます。副業はできるものですけれども、またそういったやり方もまだ併せて考えていく必要があるのかなと思っております。あくまでも本業があっての副業という考えの捉えでありますので、そういったことを公務に支障があるですとか、そういうことがないようにということの中での副業の捉えをしていきたいなということがございます。そういったものも含めて先進的な事例も含めていろんなものを模索というか、検証しながら私たちも勉強した上

でそういった副業の許可というものができていければいいなと思っています。

○議長（松田謙吾君）　４番、貳又聖規議員。

〔４番　貳又聖規君登壇〕

○４番（貳又聖規君）　私は白老町で生まれ育って、白老東高校を卒業しておりますが、白老東高校時代はサッカー部に所属しておりまして、そのときのコーチや指導者が役場職員の先輩たちが指導者として本当に我々のために汗を流していただきました。白老町はスポーツの町でもありますので、今職員の皆さん各自でボランティア等でもそういう少年団の活動を取り組まれていることと思います。私は、今回茂木町の地域商社の事例を出しましたが、白老町役場に合った、地域性に合ったやはりその地域でのお手伝いの在り方があるのかなと思いますので、そういったこともぜひ視野に入れていただきたいと思います。

そして、最後になります。人口減少時代にありますが、町職員の皆さんは限られた職員数の中、多様化、高度化する住民ニーズに応えることが求められております。本当に職員の皆さんは大変な思いをされ、日々仕事に精通されております。ウポポイの開業が近づいておりますが、ウポポイでは多くの職員が採用され、実際に内覧会等、私がウポポイに足を運ぶと若い職員が活気に満ちていると感じ取れました。それは仕事へのやりがいはもちろん、夢と希望があるからこその活気だと思います。私はこれからの役場づくりには職員の皆さんの仕事のパフォーマンスを上げるための環境づくり、それには家族とともに過ごす時間や余暇を楽しむこと、心のゆとりは必至であります。サービス残業の撤廃など抜本的な見直しが必要です。若い職員の柔軟で斬新な発想は町の原動力にもなります。ぜひ若いうちから積極的に他と交流する環境づくりをしていただきたいです。

そして、職員の育児や介護の経験、実体験は必ずや町民の皆さんのため、まちづくりに生かされます。財源がない、人が足りないでは職員は夢が持てません。魅力と活気あふれる白老町役場づくりのことについて、戸田町長はどのように考えて、また実践しようとしているのか、最後にこのことを伺って私の一般質問を終わります。

○議長（松田謙吾君）　戸田町長。

○町長（戸田安彦君）　先日の町民向けのウポポイの内覧会で若い人たちが本当に活気あふれるアイヌ文化の発信を見させていただきまして、私も感動したところでございます。それを白老町役場に置き換えますと、経験者はやっぱり経験がある分若手を育てるという仕事、役割があると思います。若手は若手で体が動く分やっぱり若い発想、新しい発想で取り組んでいくことが重要だと思っております。貳又議員がおっしゃったとおり、今我が町は人口減少と高齢化が進んでいく町で、職員の数は削減するのはもう避けられないと私も思っております。そのためには、仕事の効率化は大事ですし、それに合わせて働き方改革でやっぱりその個人の周りの環境も考えながら職場づくりをしていかなければなりません。

古俣副町長もおっしゃったとおり、やっぱり余裕がないといい仕事ができないと私も思いますし、もう私もちょっと昭和の考えでずっときていたのですけれども、今はそういう社

会ではないのは重々分かっていますので、その辺は若い方と経験者というか、年配の方ときちんと連携をしながら職場環境をつくっていきたいと思っていますし、やっぱりワーク・ライフ・バランスもしっかりと整って仕事に従事して、町民のためになる仕事をまず第一目的に目標きちんと掲げてやっていくことが必要だなと。そのためにいろいろ今日の質問でありました研修等々も含めて人材育成には力を入れていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　以上で、４番、貳又聖規議員の一般質問を終わります。